

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 水産課長 細馬 康二 電話番号 0852-22-5311

事務事業の名称	穴道湖自然館管理運営事務	
目的	(1) 対象	一般来館者、一般県民
	(2) 意図	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通して、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
事業概要	一般住民に対して広く学習機会を提供するために、指定管理者制度により施設の管理運営を行う。 指定管理者制度の円滑な運営にあたり、管理者との連絡調整や協定に基づく県運営事項（老朽化した設備の更新や修繕等）を実施する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	入館者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	穴道湖自然館の年間入館者数	目標値		110,000	110,000	110,000
			実績値	105,527	115,507	112,963	105,017		
			達成率		105.00	102.70	95.50		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		0.00	0.00				
		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	270,628	111,532
うち一般財源(千円)	235,909	110,616

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

従来から指定管理者は、企画展の開催（3回）や団体向けプログラムの実施（106回）により魅力ある施設運営に努めている。さらに、平成25年度に季節毎のトピック展示（14回）、平成26年度からは特別展の開催回数（2回→3回）を増やすなど、来館者サービスの向上を目指した創意工夫が行われている。また、学校や公民館への講師派遣（11回）により、水辺の生き物に対する興味関心と学習意欲の高揚にも貢献している。このように、指定管理者による積極的な集客努力がなされているが、平成26年度にマルチスペース改修工事に伴い、展示スペースの一部が閉鎖されたことなどから目標の入館者数には届かなかった。しかし、館内改修後は前年度を上回る入館者数となっている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成26年度に飼育設備とマルチスペース改修工事を行ったことにより、長期的な維持保全と入館者数の増加に向けた設備改善がなされた。その結果、施設改修後は大幅に入館者数が伸びている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・突発的な修繕の必要が生じている。
- ・指定管理者が今後一層のサービス向上を図っていくための運営体制が十分ではない。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・開館から14年を経て、施設の老朽化が進んでいる。
- ・館内サービスの充実に加えて、講師派遣により地域への貢献の場を拡げているが、対応できる職員数が限られている。

③原因を解消するための「課題」

- ・水生生物の飼育・展示という施設の性格上、設備機器の小さな不具合でも運営の可否に直結する。したがって、速やかな修繕及びそれに向けた費用の確保と、限られた予算内で運営に当たるため、コスト削減に取り組む必要がある。
- ・限られた職員により一層の効率的な運営を図っていくとともに、より良い人材確保の必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・施設の長期的な維持保全を念頭に、保全・改修費を含めたランニングコスト低減の見地に立って飼育設備改修工事を行う。
 ・ゴビウスサポーター制度によるボランティアの育成と協働を推進し、長期的には、今後の業務実績により専門知識・技術を持った人材確保の検討も図る。
 ・指定管理者が隣接地で運営する穴道湖グリーンパーク（鳥と昆虫等を中心）とも一体的に情報発信、展示・研究していく体制がとられているので、今後とも両者が新鮮な話題を提供できる取り組みを進めていく。
 ・今後も親子で楽しめる展示をするための工夫を継続し、新しい試みを取り入れることでリピーターの増加を目指すとともに、子どもに対する学習機会の提供のため学校との連携強化を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）